

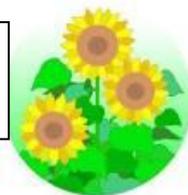


号外!

平成 25 年 8 月 27 日 火曜日 号外

佐事研だより

佐賀県公立小中学校事務研究会
編集発行人 会長 古川 治



第 45 回全国公立小中学校事務研究大会（石川大会）報告

- 【大会テーマ】 「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」
—伝統と文化に学び、新しい教育を創造しよう—
- 【特集テーマ】 —学校経営ビジョンの実現と学校経営戦略—
- 【開催期日】 平成 25 年 8 月 7 日～8 月 9 日
- 【会場】 石川県音楽堂 コンサートホール



< メイン会場 音楽堂 >

平成 21 年度に開催された福岡大会以来の全国大会参加となりました。全国の様々な支部の熱い研究、独自の実践、成果は大変興味深いものでしたが、それ以上に、県外の方と語り合うことができ大変刺激的でした。簡単にですが、今回の全国大会の概要を報告します。

<大会概要> 【第 1 日目】

- 開会式
- 文部科学省行政説明
- 全体研究会 「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」
～事務職員のキャリアデザインと能力開発～



文部科学省行政説明 文部科学省初等中等教育局主任視学官 両辻 正副氏

視学官とは・・・、一言でいうと文科省と学校をつなぐ役割を担い、学校教育に係る専門的、技術的な指導・助言を行う職ということでした。

これからの教育のキーワードとして「自立・協働・創造」を掲げ、この理念の実現に向けた生涯学習社会を構築するため、今後の教育の全体像の説明や今後 5 年間に実施すべき教育上の方策の説明がありました。

当日、文科省より配布された資料が膨大なため掲載することが出来ませんので、次項 URL よりアクセスしてください。

全事研 HP <http://zenjiken.jp/> (会員ルームへぜひアクセスしてください)

☆第2期教育振興基本計画（概要）

http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/06/20/133637

[9_01_1.pdf](#)

☆第2期教育振興基本計画（本文）

http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/06/14/133637

[9_02_1.pdf](#)

全体研究会

基調報告Ⅰ 第7次研究中期計画5年間の研究のまとめ

石川大会は、グランドデザインで示した基幹的マネジメント（財務、情報、施設設備）と、共通マネジメント（学校評価、ネットワーク、カリキュラム）を通して、学校の中・長期的な基本計画の策定と戦略的な学校マネジメントを推進する事務職員の役割とキャリア形成の在り方、地区学校事務室（共同実施組織）の展開、それらを実現するための研修の体系化、学校事務の制度化について追究する最終年度でした。

報告では、「ビジョンの共有・組織の在り方・経営資源・事務職員の役割」について説明がありました。

◆学校経営・学校マネジメントの流れ◆



基調報告Ⅱ 学校事務のグランドデザイン5年間の成果と課題

学校事務のグランドデザインは、新しい時代の中・長期的な学校事務の全体構想を描くものであり、義務教育における学校事務・事務職員の将来構想、長期的な全体計画です。

過去5年間のグランドデザイン実行策に基づいた活動に関する成果と課題について報告がありました。

成果については、コミュニティ・スクールについて、事務職員が組織運営や地域との連携のコーディネーター機能を果たしたことや、管理規則などの整備のため、市区町村教育委員会や校長会と連携を進めたなどの一定の効果があがっているものの、次項の図のとおりグランドデザインの策定を検討もしていないという市区町村が4割程度もあり全国的な推進にはまだ課題を残しているという状況でした。

佐賀県はすでに平成24年にグランドデザインを策定しており、さらに今年の秋季研究大会では、アップグレードしたグランドデザイン Ver1.1 を発表します。佐賀県にいるとわ

全事研 HP <http://zenjiken.jp/>（会員ルームへぜひアクセスしてください）

かりませんが、こうして全国大会に参加すると全国の中でも佐賀県が進んだ状況にあることを感じることができました。

◆平成24年11月 GD策定状況に関する調査◆

	回答数	回答率
策定している	20支部	48.8%
策定中	4支部	9.8%
策定していない	17支部	41.4%

回答数41支部



シンポジウム テーマ 子どもの豊かな育ちを支援する学校事務

～「学校事務のグランドデザイン」新たな戦略づくり～

3人のシンポジストによる新しい時代の事務職員の在り方や実現のための戦略について、パネルディスカッションが行われました。シンポジストの皆さんの最終的な助言は下記のとおりでした。

- ・事務長がリーダーとして組織を活性化させる。
- ・地域全体の利害関係を調整できるのが事務職員であり政策形成能力が必要。
- ・共感力を作れる人、持っている人が必要。
- ・大量退職時代を逆にプラスに考え若手の育成を図る。
- ・育てられている研修ではなく、育っていると実感できる研修が大事。
- ・グランドデザインは実行出来るものでなければ全く意味がない。



一日目のお昼休みの前に音楽堂大ホールに設置してあったパイプオルガンの演奏がありました。長旅の疲れを癒す旋律で、思わず瞼が…。写真ではわかりづらいですが、写真中央に小さく写っている女性が演奏されています。

<大会概要> 【第2日目】

- 本部研究会（全事研本部） テーマ 学校経営ビジョン実現のための戦略と学校事務
―学校経営ビジョンを推進する事務職員の在り方―
- 第1分科会（栃木支部） テーマ イノベーション！質の高い教育の実現を目指して
―学校経営ビジョン実現に迫るとちぎの基本戦略―
- 第2分科会（富山支部） テーマ 仲間とともに学校事務ビジョンの共有と実現をめざして
―協働開発中！とやまのくすりで学校パワーアップ―
- 第3分科会（福井支部） テーマ 気づきからはじめる、イノベーション！
―つながり行動しよう 子どもたちの笑顔のために―
- 第4分科会（新潟支部） テーマ 地域とともに学校事務を創造する学校事務の追求
―「研究基本要領2011」からのアクション―
- 第5分科会（石川支部） テーマ 学校経営ビジョン実現と学校事務
―財務から学校経営参画をめざして―

大会2日目は分科会でした。今回は取材のため出来るだけ多くの分科会に参加しようと思ひ、第2、3、4分科会に参加しました。参加した順に簡単にですが報告します。

第4分科会（新潟支部） テーマ 地域とともに学校事務を創造する学校事務の追求

新潟県では平成23年度にそれまでの組織的學校事務をさらに追求し、教育委員会といった関係各機関との連携・協働の下、地域とともに学校創りに主体的に関わっていくため『研究基本要領2011』を策定しています。具体的な取り組みは下記のとおりです。

○学校事務とつむぐ役割

→事務職員が学校や地域にある「ひと・もの・かね・情報・時間」といった経営資源を教育活動に結び付けていく役割を担う。

○学校の裁量権の拡大

→地域とともに学校を創っていくためには裁量権の拡大が重要であり、学校マネジメントや学校財務マネジメントの手法を活用した財務業務の推進が必要。

つづき

○学校事務機能の強化

→地域全体の教育活動の推進に、学校事務組織としての機能が発揮できるよう、「学校事務の共同実施」を「地域学校事務室（中学校区単位）」のように発展させる。

○学校の裁量権の拡大

→地域とともに学校を創っていくためには裁量権の拡大が重要であり、学校マネジメントや学校財務マネジメントの手法を活用した財務業務の推進が必要。

新潟県は平成20年度から共同実施全県実施、平成25年度から総括事務主幹職の設置と佐賀県と同じような経過を辿っているのだと分科会を聞きながら思っていたが、共同実施は未だ全県実施ではありませんでした。事務長、事務主任制も導入されている市もいくつかはあるとの報告でしたが、逆にいえば、事務長発令を受けた事務職員がある市では事務長でも、他の市では事務長ではないということになります。

そう思うと全市町で共同実施を実施している佐賀県は、導入の段階で生みの苦しみがあ

りながらも、事務長制や統括事務長制といった次のステップに進めたのだと感じました。なお、分科会会場には新潟県事務研の取り組みのみならず、県内各地区の共同実施の成果が展示されていました。多くの参加者の方が開会するまでの時間に、真剣なまなざしで資料を見られていました。



昨年の学校財務ウィークでも展示された手作りの学校模型です。職員室、保健室など特別教室ごとに児童向けの質問が設定されてありました。

自分も挑戦してみましたが、結果はもちろん…。

各地区から共同実施の成果として「就学援助事務の手引き」、「学校預かり金マニュアル」といった冊子が展示されていました。時間もあまりなかったので、ざっと目を通しましたが、新採でもわかりやすいようにまとめられていました。



第2分科会（富山支部） テーマ 仲間とともに学校事務ビジョンの共有と実現をめざして

第4分科会を午前中で中座し、兼六園の横を通り過ぎて一路第2分科会会場へ。

富山県も平成25年度から県職員採用試験から学校事務枠がなくなり、行政採用一元化になっていました。

また、ここ数年間で大量退職、世代交代を迎えるという状況でもあり、これをのりきるために「協働」をキーワードにした「とやま学校事務ビジョン」を作成されていました。

(1) 「とやま学校事務ビジョン」の基本理念（事務職員としての強み）

<弱み>	<強み>
「若年層が少ない」	→ 「経験豊かなベテランが多い」
「研究組織の研究テーマが統一されていない」	→ 「各地区で実情に応じた研究が行われている」
「1校に1人の職種である」	→ 「教員とは違う視点で子どもたちを見つめられる」 「仲間意識が強く、学校間連携がしやすい」など

(2) 仲間との「協働」の形（お互いの強みを活かして）

1) 事務職員同士の協働

「各地区の事務研究組織で、各々の得意分野を活かして実践し、共有したい」との思いから、事務職員同士が強くつながる協働

2) 校内教職員との協働

「学校では、事務職員という立場や知識を活かして教育に貢献したい」という思いから生まれた、学校内での教職員との協働

3) 家庭・地域との協働

「保護者や地域とは、専門的、客観的な視点で関わっていききたい」という思いから生まれた、家庭や地域、関係機関等外部の方との協働

(3) 実行策（進化し続ける事務職員をめざして）

1) 県全体・県事務研究会で取り組むこと

「スキルアップ研修の実施」「研修の充実」など

2) 市町村事務研究組織で取り組むこと

「財務予算の効率的な執行」「各校での事務システム化推進」「臨任職員・異動者へのサポート」など

3) 学校現場で取り組むこと

「校内事務マニュアル作成」「教育課程・学校教育目標を意識した教材選択」など



第3分科会（福井支部） テーマ 「気づき」からはじめる、イノベーション！

学校事務職員ありきではなく、学校事務とは何か、何のために学校事務職員がいるのか。事務職員の変わろうとする意識に着目し「気づき」をキーワードに学校経営戦略への参画について提案がありました。

（1）「気づき」からはじめる

1) 共同実施組織を活用する・・・地域全体で学校経営する一歩

- ① どうしたら有効に予算が使えるのか
- ② 私の学校はみんなのものという視点

2) 授業参観をする

- ① よりよい環境で授業をして欲しいという思い
- ② 教材を提案する
- ③ 予算検討委員会の設置

3) 事務職員ならではの視点で

- ① 企画委員会、指導部会、学年部会にも事務職員が参加



（2）学校イノベーションの具体的な戦略

1) 共同実施を校内の校務分掌に位置付ける

学校支援地域本部やコミュニティ・スクールの事務局同様、共同実施組織も各校の校務分掌に位置付け、活用を図れるような体制をつくり、事務処理を行う共同実施から教育支援を行う共同実施へ変化することが大切である。

2) 学校経営ビジョンに学校事務の要素をいれる

学校経営案には学校を運営することに必要な経営資源や学校事務のことについて触れられているか。めざす子どもの姿とともに記載されている具体的方策が、学校事務の分野にも及んでいるか。

3) リーダー意識を持ち、行動に移す

学校全体の予算を把握し、教育計画と結び付けた予算立案・執行を経理部長として実施していく。ほかにも、安全・安心な学校生活を充実させるため、危機管理について取り組む管理部長として、また、情報収集と整理提供の中核を担う情報部長としてなど、事務職員がリーダーとなって推進していく。

4) 教育委員会の在り方と事務職員

教育事務所管内や地教委にも学校事務職員が配置されれば、県と市町のつながり、地域とのつながりもでき、業務の効率化だけでなく、学校に寄り添った教育施策の推進などの効果が期待できる。

5) 既存の学校事務観からの脱却

これからは従来の学校事務に加えて、学校経営に関する知識、企画力、学校予算案作成と効率的な予算執行、教育委員会予算の分析、教育行政・財政のみならず一般的な地方行財政に関する法律、都道府県・市区町村の条例などに関する知識がますます必要となる。

また、情報管理に加え、情報公開、学校を地域に開くために必要となる様々な取り組みや、学校運営協議会などへの参画および責任分担などが求められ、そこではコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力なども必要となる。

第3分科会ではステージ上のシンポジストから会場の参加者へいくつか質問がありました。とある市学校教育課長さんからの質問で、「この中で大学卒業程度（上級職）採用の方は挙手をお願いします。」との質問に、会場約200人の参加者の中で手が上がったのは自分を含めてわずか5名（挙げてない方もいるかもしれませんが）でした。自治体によっては21歳までの年齢制限があるところもありました。任用に関するやりとりがしばしばステージと会場で続き、東日本では女性事務職員の方の割合が高く、西日本にいくほど男性事務職員の方が多い傾向のようでした。



全国大会に参加して…

今回、全国大会に参加させてもらって多くの貴重な体験をさせていただきました。昼間の研究会でも空き時間に全事研事務局の皆さんと情報交換をしたりしましたが、夜は記念祝賀会や懇親会などに参加し、全国や九州の皆さんと親睦を深めました。

皆さんからは佐賀県の取り組みについていろいろと質問を受けることもあり、現在の佐賀県の状況についてお話をしました。

研究会でも何度も思ったことですが、共同実施の100%全県実施、統括事務長職の設置など、佐賀県の立ち位置は全国でもトップクラスにあることを実感できました。

ただ、その状況に甘んじることなく、佐賀県はこれからも絶えず進化しつづけないといけないと決意を新たにしました。

お知らせ

石川大会で学校事務職員にとって有益な本を購入しました！興味がある方は貸出しますので、情報推進部長までご連絡ください。将来的にはブックセンターとしての拠点をつくって集中管理できればと思っています。ご期待ください！



『学校事務職員という仕事・生き方』

藤原 文雄氏 / 学事出版

若い事務職員が経験する世界は、先輩のそれとは大きく異なることが予想される。しかし、先輩たちがそれぞれの状況で主体的に行動してきた歴史から多くのことを学べる。本書は若い学校事務職員に向けた「応援歌」であり、「キャリア教育のテキスト」である。



『必備！学校施設・設備の基礎基本』

現代学校事務研究会 / 学事出版

小さな瑕疵が大きな事故につながりかねない。また、ちょっとした気づきで、予算の無駄遣いを防ぐこともできる。そうした日常的な施設・設備の見方をおして、学校事務職員の力量アップを図る。



『つくろう！事務だより』

事務だより研究会 / 学事出版

事務職員の職務内容は以前から大きく変化し、学校財務や地域連携、情報発信というような新しい職務を担うようになった。職員向け事務だよりと併せて保護者や地域、子どもに向けた情報発信が求められている。

佐事研HPの会員専用ページが9月1日よりリニューアルオープンします！
9月1日以降は、現在交付しているID/パスワードでは会員専用ページにログイン
できなくなります！
お手数ですが、2013年09月01日以降に佐事研HPより新たに会員登録をしてい
ただくようお願いいたします。
佐事研HPへアクセス！ <http://www.sajiken.com/>



◆ 編集後記 ◆

全事研石川大会の佐賀県からの参加者は全国最少の4名でした。佐賀県の旅費配当予算が少ないのが悔やまれます。

今回の全国大会で多くの方と知り合うことができましたので、今後、全国の情報を積極的に発信していきますので、ご期待ください。

佐事研情報推進部長 橋間 和隆